

# 全国ネット通信

2013年を迎えて 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 理事長 長谷川 公一

2013年、平成25年です。平成になって既に4半世紀と思うと、感慨無量です。「昭和」が遠い昔のことのように思えてきます。「平成」の日本がどういう社会だったのか、「失われた20年」と揶揄されるような改革の立ち遅れも目立ちます。他方、古い仕組みが壊され、それに代わるものとしては、混乱だけがやたらに目立つような印象もあります。「近いうち」の総選挙が終わり、自民党を中心とした新しい政権が誕生しました。「政権交代」「政治主導」のかけ声倒れの現実への失望感が、民主党の歴史的な大敗をもたらしました。

民主党自身も多数の公約違反を認めていますが、「2020年25%削減」も無責任な公約撤回の代表的なものです。「すべての主要国の参加による意欲的な目標への合意」という前提条件が満たされていない以上公約違反ではないというのは、言い逃れに聞こえます。このままでは、京都議定書の第一約束期間が終了する本年3月末以降は、日本の温室効果ガスの削減目標も、新しい実行計画もなくなることになります。成立が期待されていた温暖化対策基本法が3年間事実上棚ざらし状態で、廃案になったこともきわめて遺憾です。地球温暖化対策税が2012年度から導入されたことと、福島第一原発事故を契機に、再生可能エネルギーによる電力の固定価格買取制度がスタートしたこと

以外に、この3年間、温暖化対策については、めぼしい進展はありませんでした。原発事故を温暖化対策が進展しなかったことの口実に利用することは、責任転嫁であり、倫理的に許されません。

京都議定書の第二約束期間に日本が参加しないことは、温暖化問題への社会的な関心の低下をもたらしつつあります。2012年度は、市レベルでの地球温暖化防止活動推進センターの新設が1件もなかったことは、その証左といえるでしょう。温暖化対策については、新年にふさわしい明るい希望や展望をなかなか語りにくい現実があります。

私たちは着実に一步一歩進むしかありません。とりあえずは、2月16・17日に開催する「低炭素杯2013」を成功させましょう。全国1,371団体から応募があり、厳正な書類審査の結果、5つの地域センターから選出された5団体を含め40団体にプレゼンテーションをしていただくことになりました。今年もハイレベルでの激戦が予想されます。受賞団体に贈られるトロフィーは、アーティスト齋藤公太郎さんと福島県石川町立野木沢小学校6年児童との共同制作によるものです。「低炭素杯2013」にお出かけいただき、福島の子どもたちの思いを、全国40団体の取り組みをしっかりと受け止めましょう。末筆ながら、本年のみなさまのご多幸をお祈りいたします。

## 年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会員各位におかれましては、平素から地球温暖化防止行政に対し、御理解と御協力及び、地域における地球温暖化防止活動に特段の御尽力をいただいており、深く感謝申し上げます。

さて、我が国はこれまで地球温暖化対策の推進について官民を挙げた取組を強力に実施してきたところですが、東日本大震災以降は、エネルギー需給の逼迫の観点が特にハイライトされ、節電等によりこの問題にしっかりと対応するという意味での温暖化対策の重要性がより一層増している状況です。

こうした中で旧年中は会員の皆様が様々な取組で地域の地球温暖化対策や節電に引き続き寄与していただきましたことに深く敬意を表する次第です。

地球温暖化は人類の生存を脅かしかねない深刻な問題であり、その解決には全ての主体の参加が不可欠です。昨年末に開催されたCOP18では、全ての国が参加する実効性のある新たな国際ルールを2015年に構築することに向けた手順に合意したところです。

二酸化炭素の排出は人間活動のあらゆる場面に起因しており、

環境省 地球環境局長 関 荘一郎

広範な取組が必要です。ただ、その中でも排出量が増大している民生部門における対策の切り札として、ライフスタイルそのものの変革を強力に進め必要があります。そのためには、家庭も含めた地域に根ざした取組が不可欠ですが、これまで地域における地球温暖化防止活動に真摯に取り組んでこられた地域センターとそのネットワークがさらなる重要な役割を担っていくものと認識しています。地球温暖化対策に向けたライフスタイルのイノベーションが図られれば、その他の分野の対策を進める原動力にもなります。地域や家庭が低炭素な事業活動や製品・サービス、消費行動を選択することで、地域の活性化、ひいては日本経済の再生につながります。皆様の地域での取組を継続し、定着させることは極めて重要であり、今後も積極的に推進していく所存です。

人類共通の課題の克服に向け、環境省としても、皆様とともに歩みつつ、全力を挙げて取り組んで参る所存ですので、これまでにも増して御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットのますますの御発展と皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



# 12月2日「対話で拓くエネルギー・環境問題シンポジウム」を開催

2012年夏に取組んだ討論型世論調査を振り返るシンポジウム「対話で拓くエネルギー・環境問題～川崎市民 討論型世論調査結果から考える～」を60名の参加により、12月2日(日)に川崎市内(ユニオンビル・セミナールーム)で開催しました。

今回の一連の事業は、討論型世論調査手法を活用して実施しました。7月に無作為抽出した川崎市民3,000人へのアンケート調査、8月12日に討論イベントを開催しましたが、事前に「分かりやすいエネルギーと環境に関する資料」を送付し、当日の開始時と終了時の計3回のアンケートを行い、エネルギー・環境戦略に関する世論の把握に努めました。今回開催したシンポジウムではこれらに参加した様々な立場の皆さんと共に、一連の取組みの評価を行いました。

第一部の基調報告では、一連の調査委で実施した計3回のアンケート結果と、終了後に討論イベント参加者に対して追加で行ったアンケート調査の分析の結果が発表されました。

第二部では、討論イベントに参加した4人の市民の方から、初めのアンケートが届いた時の感想、グループ討論をした

時の思い、自分自身の考え方の変化などについて、率直な感想を述べて頂きました。この討論イベントへの参加をきっかけに、周囲の人々との対話や様々な情報を知ることが、自分にとってどうであったかの感想が話されました。

第三部では、環境問題の研究者、討論イベント時の専門家・モデレーター、地元川崎市内NPOなど、エネルギー・環境問題の様々な扱い手による討論型世論調査の可能性について議論が行われました。そのなかでは、「国が示したエネルギー・シナリオに原発0%をいれざるを得なかったのは民意の力」と評価する発言、「高濃度放射性廃棄物の処理方法」をテーマとした熟議の可能性、街づくりや少子高齢化など多様な分野での活用の提案がありました。

政府が「これからエネルギー・環境戦略」を決定するために、国民的熟議を呼びかけたことは画期的なことであり、このような取組みが今回だけ終わることなく、今後も地球温暖化を含めた様々な課題で熟議が行われることが必要であり、今回の取組みがその先駆的な事業となりうるとの評価がされました。



## プログラム

### 第一部 基調報告

宮城崇志氏（上智大学大学院地球環境学研究科）

### 第二部 討論イベント参加者4人の声

【コーディネーター】三上直之氏（北海道大学高等教育推進機構 准教授）

### 第三部 パネルディスカッション 市民討議の結果から

田中 充氏（法政大学社会学部 教授）

辰巳菊子氏（公益社団法人日本消費者アドバイザー・コンサルタント協会 常任顧問）

秋元智子氏（特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉 理事・事務局長）

竹井 斎氏（特定非営利活動法人アクト川崎 理事長）

柳下正治氏（上智大学大学院 地球環境学研究科 教授）

【コーディネーター】柳瀬 昇氏（駒澤大学法学部政治学科 准教授）

なお、このシンポジウムに合わせて、一連の活動をまとめたパンフレット(A4版8ページ)を作成しました。調査結果だけでなく「エネルギー・環境を考えるために7つの視点」など今回の事業成果を掲載しています。パンフレット希望の方は、JNCCAへお問い合わせ下さい。

全国ネットでは、全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)ホームページにCOP18特設ページを開設し、国立環境研究所 社会環境システム研究センター Doha 2012 COP18-CMP8 久保田泉氏のレポートを掲載しました。



## 久保田 泉氏からの現地レポート

2012年11月26日から12月8日まで、カタール・ドーハで、気候変動枠組条約第18回締約国会議(COP18)、京都議定書第8回締約国会議(CMP8)が開催されました。

今回の会議では、京都議定書延長期間である第2約束期間については、2013年から2020年までの8年間にすることが決まりました。また、最大のテーマであった、すべての国が参加する新体制への枠組みについては、2014年末のCOP20までに要点整理をし、2015年5月までに文書作成、同年末のCOP21に採択を目指すというスケジュールの作業計画が示されました。

全国ネットでは、JCCCAホームページにCOP18特設ページを開設し、昨年から引き続き、国立環境研究所社会環境システム研究センターの久保田泉氏のご協力により、現地レポートを掲載しました。

〈以下、JCCCAホームページ 第18回締約国会議(COP18)現地レポートより一部抜粋〉  
「12/8扉が開いているうちに:「ドーハ気候ゲートウェイ」の採択」

大変厳しい交渉が2週間続きました。交渉はぎりぎりのところで崩壊せずに済み、次につながる合意はできましたが、2020年以降の国際枠組み交渉の見通しは立たないままでした。2015年の合意期限までに残された時間は少なく、問題は山積しています。かろうじて扉が開いているうちに、行動することが重要です。科学からのメッセージを受け止め、「70億人の1つの挑戦」は、続きます。



COP18特設ページはこちら! [http://www.jccca.org/trend\\_world/conference\\_report/cop18/](http://www.jccca.org/trend_world/conference_report/cop18/)  
(現地レポートも掲載)



# 全国からファイナリストが！低炭素活動日本一を決定します！ 低炭素杯2013開催

◆日程：平成25年2月16日(土)・17日(日)

◆会場：東京ビッグサイト(国際会議場)

次世代に向けた低炭素な社会を構築するため、学校・家庭・有志・NPO・企業などの多様な主体が全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を広げる「場」を提供する「低炭素杯2013」が、低炭素杯2013実行委員会の主催により平成25年2月に開催されます。

全国からエントリーされた1371団体から厳しい審査を経て選ばれた40団体（ファイナリスト）がプレゼンテーションを行い、日本一を決定します。

今回、授与される低炭素杯（トロフィー）は、東京電力福島第一原発事故の影響を受けている福島県石川町立野木沢小学校の6年生の子どもたちの体験と今の思いを形にしたもので。全国各地域の地球温暖化対策のモデルとなる取組を知り、交流していただけるまたとない機会です。ぜひ皆さまの参加と応援をお待ちしています。

## プログラム 【総合司会】櫻田 彩子

2月16日(土) 13:00～17:30

### エントリー団体（ファイナリスト） のプレゼンテーション



福島の  
子ども達の  
トロフィー展示  
と写真展



福島の小学生が  
放射能汚染と  
向き合った記憶を  
形（トロフィー）に

▲切り倒した木の樹皮を  
カッターでとる作業

福島県石川町立野木沢小学校の6年生が、地元の樹木を使い卒業記念トロフィーと低炭素杯2013の環境大臣賞受賞団体に授与される低炭素杯（トロフィー）を制作しています。半枯れの樹齢100年のモミジの樹皮をとり、その木質部を活用したトロフィーとなります。

2月17日(日) 13:00～16:30

### 特別シンポジウム <13:00～15:00>

低炭素社会へ～世代を超える・つなぐ活動づくりのために～

<パネルディスカッション>

コーディネーター

川北秀人 IHOE（人と組織と地球のための国際研究所）代表

パネリスト

茅野 實 長野県地球温暖化防止活動推進センター長（元八十二銀行頭取）  
湯谷千鶴子 香川大学直島地域活性化プロジェクト（香川大学 経済学部2年生）  
安井レイコ エッセイスト＆料理研究家  
井田徹治 共同通信社 編集委員・論説委員（環境・開発エネルギー問題担当）  
東 大史 株式会社エコブランド代表

## 環境省 平成24年度家庭エコ診断推進基盤整備事業 家庭エコ診断シンポジウムを開催します



本シンポジウムでは、今年度実施されました家庭エコ診断と民間サービスが連携した取り組みの成果報告や、診断事業実施者と参加者との意見交換を目的とした、講演やポスターセッション、パネルディスカッションを予定しています。来年度以降に家庭エコ診断事業を行いたい、または予定している民間事業者の方、地方公共団体や環境関連団体の方などのご参加をお待ちしています。

日時 平成25年2月18日(月)13時～17時

場所 全国町村会館2F(ホールおよび第1会議室)

費用 無料 定員 150名(お申込み多数の場合、先着順とさせていただきます)

参加お申し込み

◆参加をご希望の方は、平成25年1月17日(木)～31日(木)までにE-mailにてお申し込みください。

◆参加者1名につき1通とさせていただきます。

◆参加いただける方には、2月4日(月)18:00までにE-mailにて参加券をご送付いたします。当日、プリントアウトした参加券を受付時にご提示ください。  
(お持ちいただけない場合には、参加をお断りする事がありますので、あらかじめご了承ください)

◆E-mailの件名と本文は、必ず以下の項目の明記をお願いいたします。

件名：「家庭エコ診断シンポジウム参加希望」

本文：[1]ご氏名 [2]ご所属 [3]電話番号 [4]連絡先E-mailアドレス



お申し込み・お問い合わせはコチラ

うちエコ診断総合事務局(一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット)  
E-mail: h24-kateieco@jccca.org

# エコプロダクツ2012

## 全国の地域センターの活動を紹介しました

今年のエコプロダクツ2012は「もっとグリーンに、もっとスマートに えらぼう未来を」をテーマに、12月13日～15日に東京ビッグサイトで開催されました。日本最大級の環境イベントということで、3日間で約18万人の来場者がいました。

今年の全国ネットの展示は、全国の地域・地球温暖化防止活動推進センターの活動紹介を中心とするコンセプトで各地域の活動テーマと一緒に押し写真をパネル化して、全国に54の地域センターがあることを伝える展示を行いました。

来場者は展示を見て、自分の住んでいるところのセンターを探していました。各地域に地域センターがあることを知らない方が多く、全国に54か所あることに驚かれていました。

地域センターの紹介の他、JCCAの環境教育教材の展示、低炭素杯2013の紹介も行い、来場者に全国各地の地球温暖化対策の家庭部門の推進エンジンである全国センターと地域センターの存在をアピールしました。



### 編集後記

昨年10月、在日ドイツ商工会議所主催の「ドイツ太陽エネルギー視察」に参加しました。夏の太陽熱を集めて地中に貯めて冬期の暖房に使っている住宅地区、アフリカ・中東での使用を視野に入れた太陽熱発電研究施設、フライブルクのプラスエネルギーハウスなど、先進的なドイツの取組を見学することが出来ました。

ドイツでは、住宅などの建築物は、すでに高断熱・高気密化が進んでおり、次のステップとして太陽エネルギー導入にチャレンジしていました。原発をなくし、再生可能エネルギーを飛躍的に導入する基本方針が決まり、今は税や規制を含めた社会システムの構築を着実に進めているようでした。

ドイツ政府の意欲的な戦略が、きちんと地方政府、企業、市民に伝わり、大きな方向性を皆が共有して行動に移していることが印象的でした。2013年、日本の地球温暖化対策とエネルギー戦略が熟議によって確立し、低炭素社会システムの構築が始まることになることを祈念します。

総務企画グループ 廣瀬 健二

### 編集・発行

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

〒101-0053 東京都千代田区神田美士代町9-17 神田第三中央ビル5F

TEL. 03-6273-7785 FAX. 03-5280-8100 WEB. <http://www.zenkoku-net.org/>

## 貸出教材をご活用ください

全国ネットでは、地球温暖化についてわかりやすく伝え、地球温暖化防止に向けた行動への一歩を踏み出すためのきっかけとなる参加型の学習教材「活動プログラム」等のツール教材の貸出を行っています。

- 貸出物: パネルセット31種類、タペストリー9種類、紙しばい、ゲーム、DVDなど
- 貸出料金: 原則2週間まで
- 料金: 無料(送料のみご負担ください)

### げんき ふゆ A07-02 元気なごはん～冬～ オススメ!

毎日の生活に欠かせない食べ物! そんな食べ物との付き合いの中にも、実は地球温暖化を防ぐヒントがあります。季節の食材(旬のもの)や、地元で生産される食材(地場のもの)を取り入れた暮ら



しをすると、健康的であるだけでなく、エネルギー消費が抑えられ、身近な自然環境への関心も生まれます。太陽や土のエネルギーを使って、おいしく冬を過ごすコツをまとめたパネル型ツールです。展示メインのツールのため、他のツールと組み合わせて利用することも出来ます。

◆※GEOCにて、「元気なごはん～冬～」ツールを「旬産旬消」をテーマにして展示中です。

エコアナウンサー

### 櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール  
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。  
テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、  
低炭素杯2012での司会・進行など。



司会を担当させて頂いた生物多様性国際シンポジウム終了後の、「ぶっちゃけトークタイム」でのこと。ある研究者曰く、「金融のシステムだけでなく土や山、川や海という自然と直接関わって仕事をしている人にとってお金になる形を作らないと生物多様性は守れない。地域が活性化しなければ、策を講じても一過性のものになってしまう」と。加えて私が感じたのは、環境のある分野にだけ特化した議論だけでなく、生活や学び行楽…多様な視点を包括して前に進むことの必要性でした。

ん? ちょっと待てよ。あるある、あります! そんな多様な視点が一堂に会する場が『低炭素杯2013』です。復興・CO<sub>2</sub>削減・生物多様性・地域活性化・再生可能エネルギー・ビジネス・環境教育etcを網羅している、まさにエコ活動のデパート! さあ、今回はどうなんドラマが待ち受けているのか、目撃者はあなたです。



▲千葉の大山千枚田で癒

賛助会員  
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの  
活動をサポートしてください!

年会費:個人会員 1口 5,000円(1口以上) 団体会員 1口 20,000円(1口以上)

